

【講演テーマ】 国々はグローバル時代をどう生きるか

～国境無き時代への対応～

【講師】 浜 矩子 氏

／同志社大学大学院ビジネス研究科・教授

2014年3月8日（土）、14時より、浜矩子先生（同志社大学大学院ビジネス研究科・教授）を講師にお招きして、「国々はグローバル時代をどう生きるか～国境無き時代への対応～」というテーマにてご講演いただきました。浜先生の登壇は今回が2回目で、前回は2013年3月8日（金）でした。つまり1年ぶりの浜節を聞く機会となりました。



（1）グローバル時代に咲く「あだ花」

ヒト・モノ・カネが国境を越えて動くグローバル時代であって、従来では考えられない現象や行為が派生している。時代の「あだ花」である。仮想的な世界から生まれたビットコインやリッチスタンがそれだ。ビットコインはネット上の仮想通貨、リッチスタンは仮想の「金持ち国」を示す。そこに住まう人間がリッチスタン人であり、彼らはキャピタルゲインにより巨額の富を持ち、租税回避地に住居を移して、既存国家に意味を見出さない。

（2）グローバル時代を生きる反解答

あだ花も生まれるグローバル時代に国々はどのように生きるべきか？その反面教師（反解答）として安倍政権の経済運営（アベノミクス、成長戦略）がある。何故、安倍政権の経済運営が反解答か？それは、①人間不在（人間に目が向いておらず）であり、②時代不適合（グローバル時代との親和性が欠如）であるからだ。

①人間不在：安倍政権の「成長戦略」は、経済効率ばかりを追求し、人間を後ろに追いやっている。経済活動は人間固有の営みであり人権の礎であるべきものなのに、安倍政権の「成長戦略」は人間と経済を対峙させている。

②時代不適合：安倍政権の成長戦略は、富国強兵、世界制覇戦略の思想が色濃い。グローバル時代は誰も（どの国も）一人では生きていけない時代であり、「淘汰と共生」が共存する時代である。そういう時代であって世界一を目指す戦略は間違っている。

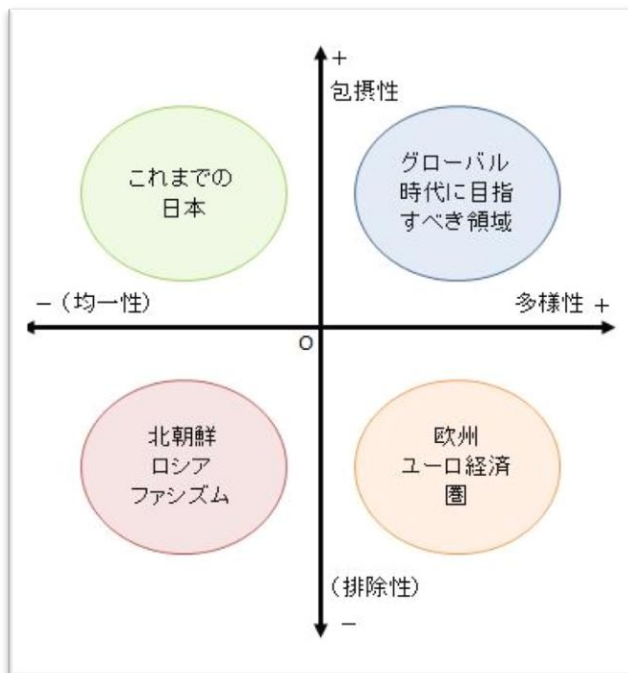


(3) グローバル時代を生きる模範解答

では、この時代に生きる国家の模範解答はどのようなものか？掲げる言葉は①「シェア（占有率）からシェア（分かち合い）へ」であり、目指す場所は②「多様性と包摂性（包容性、抱き合える力）」に富んだ世界だ。

①シェアからシェアへ：一昔前のように市場占有率を競い市場を奪い合うのではなく、互いに応分の負担や便益を分かち合う生き方を目指すべきだ。

②多様性と包摂性：目指すべき国家や地域の有り様は、多様性も包摂性も富んだ姿だ。X軸（横軸）に「多様性」、Y軸（縦軸）に「包摂性」をとって、国家の姿を類別してみよう（図1参照）。従来の日本は図1の第2象限にあったが、グローバル時代には図1の第1象限を目指すべきである。



(文責：地域連携センター長 家本博一)